

30007 法学 b、c Law		1 年次～ 前期 2 単位																			
担当者	古屋 等	履修可能学科	N																		
		関連資格	福祉主 (N)																		
サブタイトル	現代法学入門																				
授業内容 ・ ねらい	<p>「社会あるところ法あり」という言葉が示すように、私たちは直接または間接に、法というルール（規範）と関係をもちながら社会生活を営んでいます。特に現代のように高度に専門化し複雑化した社会では、私たちの法とのかわりには、以前にも増して密接なものとならざるをえません。しかしそのような法は、実は、私たちの自由や権利を守るための規範なのであり、規制や拘束は、その二次的な作用でしかありません。したがって、現代に生きる私たちには、そのような法の存在を認識し、その意味や効用を理解することが不可欠になってきます。そこで本講では、現代社会を取り巻くさまざまな現象を、法的な観点から分析できる能力を身につけるため、法に関する一般理論を学び、刑法や民法といった生活に密接した法領域の基礎を学んでいきます。日本国憲法の理解にも必要な勉強が含まれますので、ぜひ受講してみてください。</p>																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>(1) ガイダンス</td> <td>(10) 民法の基本構造</td> </tr> <tr> <td>(2) 法とは何か</td> <td>(11) 財産関係と法Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>(3) 法の種類と存在形式</td> <td>(12) 財産関係と法Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>(4) 法の段階的構造</td> <td>(13) 家族関係と法Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>(5) 罪刑法定主義</td> <td>(14) 家族関係と法Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>(6) 犯罪の成立要件Ⅰ</td> <td>(15) まとめ・テスト</td> </tr> <tr> <td>(7) 犯罪の成立要件Ⅱ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(8) 刑事手続の基本原理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(9) 裁判手続の基本構造</td> <td></td> </tr> </table>			(1) ガイダンス	(10) 民法の基本構造	(2) 法とは何か	(11) 財産関係と法Ⅰ	(3) 法の種類と存在形式	(12) 財産関係と法Ⅱ	(4) 法の段階的構造	(13) 家族関係と法Ⅰ	(5) 罪刑法定主義	(14) 家族関係と法Ⅱ	(6) 犯罪の成立要件Ⅰ	(15) まとめ・テスト	(7) 犯罪の成立要件Ⅱ		(8) 刑事手続の基本原理		(9) 裁判手続の基本構造	
(1) ガイダンス	(10) 民法の基本構造																				
(2) 法とは何か	(11) 財産関係と法Ⅰ																				
(3) 法の種類と存在形式	(12) 財産関係と法Ⅱ																				
(4) 法の段階的構造	(13) 家族関係と法Ⅰ																				
(5) 罪刑法定主義	(14) 家族関係と法Ⅱ																				
(6) 犯罪の成立要件Ⅰ	(15) まとめ・テスト																				
(7) 犯罪の成立要件Ⅱ																					
(8) 刑事手続の基本原理																					
(9) 裁判手続の基本構造																					
教科書 参考書	教) 上野幸彦・古屋等『国家と社会の基本法』（成文堂）2500円＋税 参) 『六法』（特に指定しません）																				
評価方法	授業中に行う小テスト（3回）を20%、期末試験を80%に換算して、合算のうえ評価を行う。																				
事前準備学習 履修条件等	小テストを必ず受けて、授業内容を確認のうえ、期末試験を受けること。 こまめに六法（条文）を参照し、内容を理解しておくこと。																				